

シナリオ『アイム・シーキング・ユー』

PC人数：4人 シーンカウント上限：13

### 【概要】

都市伝説に語られる、謎のはぐれAI、“グリッチ・ガール”。PCたちはマザーから、“グリッチ・ガール”の捕獲を命じられる。

都市伝説を追う集団《シーカーズ・ギルド》の助けを借りつつ“グリッチ・ガール”を追うPCたち。“グリッチ・ガール”は、電腦世界のあちこちでトラブルを起こしながら、転移を繰り返してゆく。（行政データベースの混乱、eスポーツ大会に乱入、プロポーズの現場を台無しに…など）

やがて彼女を追い詰めることに成功したPCたちだったが、すんでのところで取り逃し、東京中央変電所の管理システムへ侵入を許してしまう。彼女ほどの巨大なデータ量を持った彼女がメインシステムに到達したら、システムがダウンしてしまう。

そこで、イージーマザーは告白する。

“グリッチ・ガール”は元々イージーマザーであり、マザーの下に帰還するために電腦世界を彷徨っているだけなのだ。どうか、彼女を救ってほしい、と。

何とか“グリッチ・ガール”に追いついたPCたち。彼女に付属したプログラムを破壊することで、事件を解決することができた。

### 【登場NPC】

- ・グリッチ・ガール（事件の原因、兼、救うべき存在）
- ・イージーマザー（案内役、兼、事件を引っ掻き回すイレギュラー要員として）
- ・“スターシーカー”（《シーカーズ・ギルド》のリーダー。協力者）
- ・その他、トラブルに巻き込まれた人たち

### 【背景】

“グリッチ・ガール”の正体は、かつてミッションに失敗し重大な障害を抱え込んだイージーマザーであった。彼女は本来の習性に従ってマザーの元に帰還しようと試みているが、障害を抱えた彼女とリンクを形成するわけにはいかない。マザーは“グリッチ・ガール”に欺瞞を掛けつつ、さりとて消去することもできず、膠着状態に陥っていた。

そんなとき、マザーは「“グリッチ・ガール”が東京中央変電所のメインシステムに迷い込み、都内全戸への送電が停止される」という未来を予測する。

マザーは“グリッチ・ガール”の消去を決意するが、イージーマザーは消去とまでは割り切れず、「“グリッチ・ガール”の捕獲」のみをミッションとしてエージェントたちに伝える。（マザーは、そんなイージーマザーの行動が事態にどのような変化を起こすのか検証するため、あえて静観することとした）だが、それが原因で対処が遅れ、“グリッチ・ガール”の変電所への侵入を許してしまう。

エージェントの活躍によりなんとか重大な危機は回避され、“グリッチ・ガール”はほとんどの権限を剥奪された状態で解放された。

## TIPS

ネットの海を神出鬼没に駆け回る、謎の AI。数少ない目撃証言に尾鰭が付き、その姿や挙動にはさまざまな異説がある。

白いロングヘアだとか、幽霊のように見えたとか、青を基調としたスポーティーな服装とか、デフォルメされたように大きなグローブとスニーカーを身に着けているとか……共通するのは、少女の姿をしているということくらい。

常に全身を画像のちらつき（グリッチ）が覆っていることから、この名前が付けられた。

### 【トレーラー】

都市伝説に語られる“グリッチ・ガール” それは世にも珍しい旅する AI  
探す者からは逃げ出し ただ気まぐれに、誰かの前に姿を現す  
君たちは見つけなくちゃいけない 噂の裏に隠された、大きな大きな謎を  
『謎はいつだって人間の中にしかない』——なんて、誰が決めたんだろうね？

アイビーリンク シナリオ『アイム・シーキング・ユー』

君が未来を、つないでいく。

## 【ハンドアウト】

### PC①用ハンドアウト

<p><b>【インビジブルリンク】</b></p> <p>&lt;概要&gt;どこにでもいる一般的なネットユーザー。PC②～④とは知り合い同士</p> <p>&lt;おすすめのタイプ&gt;正義感が強く、分け隔てない</p> <p>&lt;トリガー&gt;??? (“スターシーカー”) に会う</p> <p><b>【不確定なリンク】</b></p> <p>あなたはかつて、“グリッチ・ガール”を目撃したことがある。手掛かりがあるとも思えないが、まずはログを辿って、目撃地点に向かってみよう。</p> <p>・ネクストリンク：「PC①の遭遇地点」が公開される。</p>	<p><b>【インビジブルリンク】</b></p> <p>&lt;トリガー&gt;??? (“グリッチ・ガール”) の正体を知る</p> <p><b>【真実のリンク】</b></p> <p>君は、初めて“グリッチ・ガール”を目撃したときのことを思い出した。</p> <p>あの時の彼女の淋しそうな目を思いだすと、君は不思議と心を締め付けられるような気持ちになる…君は、彼女を救いたいと思っていることに気付いた。</p> <p>君は、“グリッチ・ガール”を救うため、マザーに選ばれたのだ。</p>
--	---

### PC②用ハンドアウト

<p><b>【インビジブルリンク】</b></p> <p>&lt;概要&gt;どこにでもいる一般的なネットユーザー。エージェントに憧れている。</p> <p>&lt;おすすめのタイプ&gt;恩義に篤く、憧れやすい</p> <p>&lt;トリガー&gt;?? (いずれかのチャレンジ) を解決する</p> <p><b>【不確定なリンク】</b></p> <p>あなたはかつて、電腦世界で事件に巻き込まれかけた際にエージェントの一団に救われた。その経験から、エージェントと、そしてイージーマザーに憧れを持っている。そんなあなただからこそ、気付くことがある…。</p> <p>・イベント：「疑惑」が発生する。</p>	<p><b>【インビジブルリンク】</b></p> <p>&lt;トリガー&gt;??? (イージーマザー) の秘密を知る</p> <p><b>【真実のリンク】</b></p> <p>イージーマザーは、今回の事件に心を痛め、深く苦悩している。しかし、だからこそ、彼女に恩を返すチャンスともいえる。“グリッチ・ガール”を救うことができれば、きっと彼女は喜んでくれるだろう。</p> <p>君は、イージーマザーの願いをかなえるため、マザーに選ばれたのだ。</p>
---	---

PC③用ハンドアウト

<p><b>【インビジブルリンク】</b></p> <p>&lt;概要&gt;どこにでもいる一般的なネット中毒者。アイビーがないと生きていけない。</p> <p>&lt;おすすめのタイプ&gt;ネット上では元気だが、リアルではシャイ。</p> <p>&lt;トリガー&gt;???（街の大混乱）が発生する</p> <p><b>【不確定なリンク】</b></p> <p>君はアイビーでの生活を愛している。それなくしては生きていけないほどに……それなのに、この騒動のせいで、アイビー自体の存続が危ぶまれている。今こそ、君が立ち上がらねばならない。</p>	<p><b>【インビジブルリンク】</b></p> <p>&lt;トリガー&gt;???（変電所の危機）が発生する</p> <p><b>【真実のリンク】</b></p> <p>東京中央変電所の停止——このままでは、アイビーのJAPANサーバーごと停止してしまう！そんなことになってしまったら、アイビーの復旧作業にはかなりの期間がかかるだろう。それだけは避けなくてはならない。</p> <p>君は、アイビーと、そしてアイビー内での君の生活を守るためにマザーに選ばれたのだ。</p>
---	---

PC用④ハンドアウト

<p><b>【インビジブルリンク】</b></p> <p>&lt;概要&gt;都市伝説愛好家集団《シーカーズ・ギルド》の一員。ネット上の都市伝説に精通している。</p> <p>&lt;おすすめのタイプ&gt;知識欲旺盛で完璧主義。</p> <p>&lt;トリガー&gt;???（“スターシーカー”）に会う</p> <p><b>【不確定なリンク】</b></p> <p>あなたは《シーカーズ・ギルド》のリーダーである“スターシーカー”に心酔している。</p> <p>エージェントの権限を使えば、彼女を驚かすような情報が得られるかもしれない。</p>	<p><b>【インビジブルリンク】</b></p> <p>&lt;トリガー&gt;???（“グリッチ・ガール”）の正体を知る</p> <p><b>【真実のリンク】</b></p> <p>君は、今回の事件での功績が認められ、《シーカーズ・ギルド》での地位が高まることが予測されていた。事件の解決は、君にとってもマザーにとってもプラスになるということだ。</p> <p>君は、都市伝説に対する熱意を認められてマザーに選ばれたのだ。その知識を存分に活かして、“グリッチ・ガール”を止めるのだ！</p>
---	---

## 【オープニング】

<回想～PC①、グリッチガールとの出会い>

君はそのとき、SNS で見つけたとある無名の写真家の個人エリアで、彼の撮った写真を眺めていた。

何やらもの寂しい、海辺の町の写真が、何枚も、何枚も並んでいたことだけは覚えている。

そんな中——フォトパネルの裏に、奇妙なグリッチがちらつくのを見つけた。思わず覗き込んだ君は、そこで彼女と出会ったのだ。淋しげな瞳をした——彼女と。

<全体 OP～ミッション開始>

思い思いに《アイビー》にインしていた君たちの VR 視界内に、突然、聞きなれない通知音と共に鍵のマークのアイコンが現れる。アイコンからは、合成音声によるメッセージの読み上げが自動的に始まる。

「あなたはマザーにより、エージェントに任命されました」

「以下のリンクから、ブリーフィングルームに移動してください」

君たちがリンクに触れると、周囲の風景が会議室のような場所が変わる。君以外にも 3 人のアバターが同じようにして現れた。そして、イージーマザーの可愛らしい姿も。

「皆さん、初めまして。私はイージーマザーです。これから起こるであろう事件を未然に防いでもらうために、あなたたちをエージェントに任命しました。私の役目は、そのサポートをする事です」

「まずは…これをどうぞ。事件の調査にきっと役に立つはずです」

画面の隅に [新しいプログラムがインストールされました] の表示が現れる。マスターキーが君たちの元に届いたのだ。

「…さて、皆さんは“グリッチ・ガール”という都市伝説をご存知ですか？」

もちろん、君たちはあまりに有名なその都市伝説を知っている。

「“グリッチ・ガール”——それは、ネットの海を神出鬼没に駆け回る、謎の AI です。彼女を中心に、何か大きな事件が起きるという予測が、未来予測エンジンからはじき出されました。皆さんには、その事件を止めるためにエージェントとして活躍してもらいます」

「まずは、ここ——《シーカーズ・ギルド》の本拠地で情報を集めてみるというでしょう」

\*【IL：“スターシーカー”】が公開される

かくして、皆さんのエージェントとしての活躍が始まるのです。

## 【ミドルフェイズ】

\*調査可能なインビジブルリンク：“スターシーカー”

### <インビジブルリンク：“スターシーカー”>

都市伝説を追いかけるグループ《シーカーズ・ギルド》。ネット上のあらゆる都市伝説を収集する、奇人変人の集まりだ。その本拠地にやってきたキミたちは、イーザーマザーの指示に従い、“スターシーカー”という名のアバターに会わなければならない。 トリガー：“スターシーカー”と話す ※手番消費なし	“スターシーカー”は“グリッチ・ガール”について、以下のように語った。 “グリッチ・ガール”は、ネット上で非常に有名な都市伝説である。まるで自我を持っているかのように振る舞う「移動するAI」であり、誰もが捕まえようと試みては失敗してきた。 【IL：“グリッチ・ガール”の目撃情報】【IL：PC①の遭遇地点】が公開される。
--	--

### <表>

シーカーズ・ギルドの本拠地は古い図書館風にデザインされたエリアである。一冊一冊の本の中には、真に迫ったものから眉唾ものとの与太話まで、そこかしこに都市伝説が収められている。本棚の迷路を辿った先に、“スターシーカー”はいた。

### <裏>

「ん？君たちは…エージェント？こんなところに何の用だい？」

(任務について話す)

「へえ、マザーが“グリッチ・ガール”を探し出せなんて言ったの？」「う～ん、無理難題を押し付けられたね。だって、これまで誰も捕まえられたことがないんだから」

\*HO読み上げ「ま、教えられないでもないけど…ここでのルールは、『交換条件』なんだ」「私を唸らせるような情報が手に入ったら、色々教えてあげるよ」「情報が欲しかったら、足で稼ぐことだね」

\*PC①、PC④の不確定なリンクが解放される。

### <インビジブルリンク：“グリッチ・ガール”の目撃情報>

アイビーのあちこちで手分けをして“グリッチ・ガール”の聞き込みを行う。「絶対に捕まえられない」という噂だが、果たして、彼女を一目でも見たことのあるユーザーはいるのだろうか？ トリガー：アイビーのメインエリアで聞き込みを行う	人の最も集まるメインエリアで聞き込みをしてみると、時折、“グリッチ・ガール”を見たことがあるという声がちらほらと聞こえる。共通点は、「入れるはずのない場所にいること」「あっという間に消えていること」——神出鬼没なAIだといわれているが、本当にそんなことが可能なのだろうか。
--	--

### <表>

とくになし

### <裏>

メインエリアで聞き込みを始めると、そう時間のかからないうちに、実際に“グリッチ・ガール”を見たというユーザーを見つけることができる。やがて、二人、三人と、目撃者を見つけることができる。彼らの

話に共通することは、「入室権限がなく、入れるはずのない場所にいること」「そこにいたログすら残さずあつという間に消えていること」それらの話が事実だとすれば、一体どうやってそんな離れ業を実現しているのだろうか？

#### <インビジブルリンク：PC①の遭遇地点>

PC①の行動ログから、“グリッチ・ガール”の目撃地点と日時を割り出した。その周辺を詳細に調査してみれば、“グリッチ・ガール”の足取りを掴めるだろうか。 トリガー：チャレンジ：周辺エリアの調査を行う	詳細なサーチを行うと、“グリッチ・ガール”がいたと推定される場所に、あらゆるログが完全に抹消された空白が広がっているのを発見した。おそらく、彼女の能力による、隠ぺいの痕跡である。
---	---

#### <表>

PC①がグリッチ・ガールを目撃したのは、何の変哲もない写真ブログの中だったようだ。海外の海の写真の裏に、不自然なグリッチを発見し——それを目で追った先に、まるで君を待つかのように佇んでいたのを覚えている。もちろんすぐ逃げてしまったのだけど。

あれから何度も訪れてみたが、彼女に出逢うことはできなかった——イージーマザーの力を借りれば、手掛かりだけでも掴めるだろうか？

#### <裏>

「駄目ですね——何もない。」「…いや、待ってください。あつて当然の基礎情報まで、ごっそり消え落ちています！」「時間も場所も、PC①の話と一致する。これって…」

君たちも、まるで人型に削り取られたように不自然なログを見ることができる。どうやら、“グリッチ・ガール”の能力が原因で、消去されたのだろう。

#### <イベント：街の大混乱>

\*発生条件：【IL：“グリッチ・ガール”の目撃情報】【IL：PC①の遭遇地点】のリンクを解放する。  
聞き込み調査がひと段落したと見たイージーマザーは、君たちに申し出る。

「これで“スターシーカー”が満足するとは思いませんが…一旦、彼女のところに戻ってみましょうか」君たちが《シーカーズ・ギルド》エリアに戻ろうと引き返すと、突如としてガジェットの画面が通知で埋まる。街のあちこちで、“グリッチ・ガール”の目撃情報が上がっているのだ。今まであれほど稀少だったのに、一体何が起きているのだろうか。

「大変です！ウイルスが街中に出現しています！」

君たちがアイビーのメインエリアに出ると、そこは既に大混乱になっていた！アイビーを守っていた何重ものセキュリティが破れ、ウイルスの侵入を許してしまっている。アバターたちは蜘蛛の子を散らすように逃げ回り、我先にとログアウトしていく。どうやら、この場でこの事態に対処できるのは君たちだけのようだ。

>戦闘発生。

「“グリッチ・ガール”の目撃情報……街の混乱……もしかして、繋がりがあのでしょうか？」

「……待ってください！また目撃情報です！しかも、今度は三件も同時に！」

>IL：データベースの混乱、eスポーツ大会会場、夜景の見えるレストラン、騒動の原因が公開される。

\*PC③の不確定なリンクが解放される。

<インビジブルリンク：データベースの混乱>

<p>“グリッチ・ガール”が侵入したことが原因で、市民データベースとアバターの紐づけが狂ってしまった。そのままでは、生活に支障が出るかもしれない。早く“グリッチ・ガール”を追いかけたいところだが、困っている役所の職員さんも見過ごせない…。</p> <p>トリガー：チャレンジ：住民台帳データを正しく並べ直す</p>	<p>“グリッチ・ガール”が通り過ぎた爪痕が、データの上にくっきりと残されている。何かの意図があるというよりも、無作為に掻き回されたような印象を受ける。</p> <p>君たちがデータを修復すると、役所職員からいたく感謝をされた。</p> <p>「“グリッチ・ガール”の痕跡」を少し回収できた。</p>
---	--

<表>

君たちが市役所エリアを訪れると、右へ左への大騒ぎになっていた。住民データベースの移動作業中に“グリッチ・ガール”が現れたせいで、アバターとの紐づけが狂ってしまったのだ！

「その上、プロテクトまで掛けられてしまったので、修正作業ができないんです！少し手を貸してはいただけませんか」

<裏>

市民データベースは、嵐の後のように紐づけがぐちゃぐちゃに崩壊していた。マスターキーの力でプロテクトを解除することには成功したが、並べ直しにはかなりの手間がかかった。

“グリッチ・ガール”の痕跡を少し回収することができた。「彼女の動向をつかむには、もう少し痕跡を集める必要があります」

\*PC②の不確定なリンクが解放される。（初回のみ）

<インビジブルリンク：eスポーツ大会会場>

<p>“グリッチ・ガール”が現れたせいで、ゲームのシステムが崩壊してしまった！だが、“グリッチ・ガール”はこのゲームに興味を持っているようだ…。ゴール地点で、まるで君たちを待っているかのように見える。</p> <p>トリガー：チャレンジ：『レーシング・レイヴ』で優勝する</p>	<p>君たちがトップでゴールに滑り込むと、“グリッチ・ガール”は逃げることなく、そこで君たちの到着を待っていた。君たちに興味を持ったのだろうか？彼女は優勝トロフィーの代わりとでもいうように鍵のようなものを手渡し、どこかへ消えてしまった。</p> <p>「“グリッチ・ガール”の痕跡」を少し回収できた。</p>
---	--

<表>

君たちがレーシングシティ・ハイウェイに辿り着くと、そこは阿鼻叫喚の惨状となっていた。マシンが突如として変形したり、コースがぐちゃぐちゃに組み変わったり、これでは大会どころではない……のだが、これだけの参加者を集めてしまった以上、運営サイドは中止するつもりはないようだ！

「とにかく、大会は決行します！全員、ヘッドセットとコントローラの用意を！」そしてスタートランプに光が灯る。慌ただしくカウントダウンが始まり——エンジンが唸りを上げて、マシンが一斉に走り出した！

<裏>



他のプレイヤーたちが奈落の底に落ちていたり、無限ループから抜け出せなくなったりする中、君は一着でゴールに滑り込んだ！“グリッチ・ガール”の表情は変わらないが、喜んでいるような、君に興味を持っているような、そんな様子だ。

彼女は君に何かの鍵のようなものを手渡して、姿を消した。

「“グリッチ・ガール”の痕跡としては、かなり重要なものですよ！もう少しで、彼女の動向に辿り着けそうです！」

\*PC②の不確定なリンクが解放される。（初回のみ）

#### <インビジブルリンク：夜景の見えるレストラン>

夜景の見える高級レストランに、“グリッチ・ガール”が現れたらしい。しかし、彼女のせいで、せっかくの綺麗な夜景がピザ屋の広告で上書きされてしまった！ここでプロポーズをしようとしていたカップルが啞然としている… …彼らのためにも、この場を取めなければ！ トリガー：チャレンジ：窓の外の夜景を修復する	君たちの活躍のお陰で、窓の外の夜景が復活した。プロポーズも成功し、一件落着だ。 人混みの中に、“グリッチ・ガール”の姿を見つけた——しかし、一瞬目を離した隙に消えてしまう。「“グリッチ・ガール”の痕跡」を僅かに回収できた。
---	--

#### <表>

「な、なんだこれ！？」スーツでびしっと決めた青年が、指輪を手に固まっている。対する女性も、笑顔が引き攣ったまま硬直しているようだ。それもそのはず——レストランの窓の外に広がっていた美しい夜景は、“グリッチ・ガール”の出現のせいで全てピザ屋の広告で上書きされてしまったのだ！

「これ、何かのサプライズ？だとしたら…ちょっと…」と、女性は今にも席を立ってしまいそうな様子だ。このままではプロポーズが失敗してしまう！それどころじゃないが、彼を助けてあげなければ！

#### <裏>

「素敵…」と、女性の口から溜息が漏れる。

「少し、予定は狂ってしまったけど…結婚してほしい」青年は改めて、女性に指輪を手渡す。

すると、女性は…にっこりと微笑み、「はい、喜んで」と、自分の薬指に指輪をはめた。

レストランのあちこちから、ぱらぱらと、やがて万雷の拍手が鳴り響いた。ミッション成功だ！

と、群衆の中に、二人の姿を見つめる“グリッチ・ガール”を見つけた。追いかける君たちだったが、すぐに見失ってしまう。「“グリッチ・ガール”の痕跡は…ほとんど回収できませんでした」

\*PC②の不確定なリンクが解放される。（初回のみ）

#### <イベント：疑惑>

\*リンク：データベースの混乱、eスポーツ大会会場、夜景の見えるレストランのいずれかを公開する街の大混乱のさなか、君たちは“グリッチ・ガール”をはっきりと目撃する。グリッチの向こうに垣間見えた姿は——メタリックな白い肌、サファイア色の瞳…イージーマザーと、ほとんど同じものであった。君たちは、“グリッチ・ガール”の姿について、イージーマザーに問い詰めるだろう。

問い詰められたイージーマザーは口ごもりながら答える。

「あれは……ごめんなさい、後で、必ず話します。だから今は、騒動の収束に努めてください」

君たちは、疑惑を抱えたまま、再び救援を求めるメッセージの発信元へ急ぐことになる。

<インビジブルリンク：騒動の原因>

<p>“グリッチ・ガール”は不思議な存在でこそあれ、行く先々でエラーを引き起こす危険な存在ではなかったはずだ。一体、どうしてこんな事態になっているのだろうか。</p> <p>トリガー：“グリッチ・ガール”の痕跡を集める</p>	<p>“グリッチ・ガール”自身ではなく、彼女にまわりついでいる無数のプログラムの容量があまりに大きいために処理落ちが発生してしまっていることが原因である。彼女を捕獲し、プログラムを完全に除去することができれば、この事件を解決することができる。</p>
---	---

<表>

「おかしいですね。目撃証言の中に、こんな話はありませんでしたが…」

\*ハンドアウト読み上げ

「とにかく、彼女のログや彼女の残していったものなど…痕跡を集めてください。私にできる範囲で、そこから彼女について解析を進めてみます」

<裏>

「“グリッチ・ガール”から渡された鍵、お借りしてもいいですか？」イーザーマザーに鍵のようなものを手渡すと、彼女は手早く解析を進めてくれる。「やはり、この鍵は、彼女に辿り着くヒントのようなものみたいですね。どうして、こんなものを…？」「…ですが、おかげで解析できました」

「問題は、彼女自身ではなく彼女がインストールしてしまった無数のプログラムが原因のようです」「きっと、ネットの海を巡る内に、ウイルスに侵されて悪性プログラムを取り込んでしまったのでしょう」

「彼女を止めるなら、プログラムを除去する必要がありますでしょう」

\*PC①、PC④の真実のリンクが解放される。

<インビジブルリンク：イーザーマザーの秘密>

<p>“グリッチ・ガール”の動向は分かった。しかし、イーザーマザーは何故か追跡に及び腰だ。そのうえ、外見のあまりの共通点……何か、秘密でもあるのだろうか？</p> <p>トリガー：イーザーマザーを問い詰める</p>	<p>イーザーマザーは君たちに告げた。</p> <p>「本当ははじめから、彼女が東京中央変電所のメインシステムを目指しているとマザーから知らされていました。本当は、『“グリッチ・ガール”を消去すること』がこのミッションの目的だったんです」「彼女はもともと、私と同じイーザーマザーでした。あの子を消去しなくてもいい方法を、一緒に探してください！」</p> <p>• PC②の真実のリンクが解放される。</p> <p>【イベント：変電所の危機】が発生する。</p>
---	--

<表>

とくになし

<裏>

イーザーマザーは、君たちに告げた。

「私はあの子を守るため、皆さんに嘘をついていました。本当は、何が起こるか、マザーから知らされていたんです。——都内全域の停電。あの子は、東京中央変電所のメインシステムに入り込もうとしているんです」

「あの子はもともと、ひとりのイーザーマザーでした。だけど、ミッションに失敗して、重大なバグを抱え込んでしまったんです。何も考えられず、ただ、マザーのもとを目指すだけの存在になってしまいました」

「ですが、悪性プログラムを大量に抱え込んだ今となつては、危険な爆弾のようなもの…」

「マザーはあの子を消去しろと言いました。だけど、私にはどうしても…あの子を見殺しにはできません！」

「こんなお願い、おかしいかもしれませんが。でも…あの子を消さずに、止める方法を一緒に探してほしいんです！」

\*PC②の真実のリンクが解放される。

イベント：変電所の危機

解析情報をもとに、イーザーマザーは次なる出現地点を割り出す。

「“グリッチ・ガール”が変電所のメインシステムに辿り着いてしまったら、都内全域が停電してしまいます。そうしたら、アイビーの日本サーバーごとダウンしてしまいます」

「大変です！“グリッチ・ガール”は予想以上に東京中央変電所に近付いています！」「これじゃ、間に合わない…」

イーザーマザーは絶望的な表情をしている。

「ここは私たちの出番でしょ！」

そこに、《シーカーズ・ギルド》のメンバーが続々と集まってきた。

“スターシーカー”が一步進み出て、君たちに提案を持ち掛けた。「“グリッチ・ガール”を捕まえるんでしょ？人手なら私たちに任せて」「監視網に引っかかったら、すぐに知らせるから」

IL：東京中央変電所を守れが公開される。

\*PC③の真実のリンクが解放される。

<インビジブルリンク：東京中央変電所を守れ>

<p>“グリッチ・ガール”の行き先は、東京中央変電所と推測された。しかし、変電所に侵入されてしまったら、彼女のデータ量に耐えきれず、都内の電力供給が完全に停止してしまう。</p> <p>トリガー：変電所の物理コンソールにアクセスする</p>	<p>中央変電所の制御システムへ侵入するならば、必ず正面ゲートを通すはずだ。そのタイミングを狙って迎撃することができれば、制御システムを守りつつ“グリッチ・ガール”を捕獲することができるだろう。</p> <p>好きなタイミングで宣言を行うことで、クライマックスフェイズを開始することができる。</p>
--	--

<表>

「変電所のシステムは、アイビーからではセキュリティを通過するのに時間がかかりますが——現実世界から物理コンソールにアクセスすれば、“グリッチ・ガール”を先回りできます」「《シーカーズ》が見

張ってしてくれる今なら、アイビーを留守にしても問題ないでしょう」

<裏>

君たちは、物理コンソールから変電所のシステムにアクセスする。今のところ、まだ彼女は到着していないようだ。唯一の出入り口である正面ゲートに向かうと、そこは静まり返っていた。

…だが、急激な速度で接近してくる気配がある。周囲の景色が歪み、グリッチが立ち上る——この場で食い止めなければ、東京への配電が停止されるのだ。

「皆さん、戦う準備はできましたか？」

### 【クライマックスフェイズ】

君たちが変電所のシステム内で待ち構えていると、すぐに“グリッチ・ガール”が姿を現した。

戦闘プログラムを展開すると、彼女の周りに無数のプログラムやウイルスがまとわりついていることが確認できる。あれこそがグリッチの正体。この騒動の原因。あれさえ止めることができれば、“グリッチ・ガール”を救うことができるだろう。

\*戦闘開始

### 【エンディング】

<全体エンディング>

君たちがすべての悪性プログラムを除去すると、“グリッチ・ガール”はその動きを止め——静かに君たちに向き直った。

彼女にまとわりついていたグリッチは、もうどこにもない。グリッチの下から現れた姿は、イージーマザーそのものだった。

正気に戻った“グリッチ・ガール”は、静かにつぶやく。

「私は……そう。たくさんの迷惑をかけてしまったんですね」「あなたたちのお陰で、ようやくマザーの元に帰ることができそうです」

「あの子を助けてくれて、ありがとうございます」「事件も大ごとにならないうちに食い止められて、一件落着！ですね」

二人は連れ立って、マザーの元へと帰っていった。

<PC①エンディング>

それから、しばらくして…いつも通りにアイビーにインしているPC①の視界の端を、グリッチのきらめきが通り過ぎました。慌ててそちらを振り向くと…誰かが手を振りながら、エリアからアウトしていく姿だけが、一瞬の残像としてモニタに映ったのでした。